

## イベントレポート 『2009 K耐久東海シリーズ 第2戦』

開催日 2009年5月24日(日) 9:30 決勝スタート

天候 曇り一時雨

最高気温 23.7 (12時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 30台

2009年5月24日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009K耐久/GT耐久東海シリーズ第2戦が行われた。

朝方は薄日が差す曇りの天気であったが、決勝途中で一時的に雨が降り、ドライバーにとっては難しいコンディションの中でのレースとなった。

この降雨の影響もあり、今回はコースアウトによる赤旗中断や、SC導入が普段のレースより多く発生し、このためにピットインタイミングが結果を大きく左右する難しいレースとなった。



### KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

毎回最多エントリーとなるこのクラス、今回も10台のエントリーを集めての激戦区となった。が、前戦優勝のNo.127のチームが別クラスにエントリーしたため、他チームは優勝を狙う良いチャンスとなった。

### 予選

予選1位となったのはNo.48「SHINWAサトー建材BEAT」で、タイムは1:8.301をマーク。前回初の表彰となる5位入賞を果たしたチームが勢いそのままにクラストップを獲得。

続く2位には前戦2位を獲得したNo.10「ぼんこつトゥデイ」でトップから遅れることわずか0.5秒。

3位には表彰台の常連JKレーシングのニューマシンのNo.36「JKレーシングトゥデイ」が2位から遅れること0.1秒の超僅差で付ける。

以下4位にNo.7「あんじょうトゥデイ」、5位No.38「デモリッションエグゼットゥデイ」、6位No.39「JKレーシングビート」と続く。



### 序盤

序盤、上位3台は予選の順位そのままにデッドヒートを繰り広げる。30分経過時点での1位No.48「SHINWAサトー建材BEAT」、2位No.10「ぼんこつトゥデイ」、3位No.36「JKレーシングトゥデイ」で、21LAPを経過したものの、その差はわずか数秒ずつ。トップドライバーの意地のぶつかり合いか。

4位と5位は1LAP遅れで、No.38「デモリッションエグゼットゥデイ」と、初参加のNo.6「がぶりこがぶがぶトゥデイ」が追いかける。

さらに1Lap遅れに3台が付け、6位No.77「JKパワーズトゥデイ」、7位No.100「HACもらいものビート」、8位No.39「JKレーシングEUROUビート」と続く。

### 中盤

2時間経過時点でもやはり予選上位3台を中心の上位争いとなる。トップは64LAPのNo.36「JKレーシングトゥデイ」が浮上。しかし2位のNo.48「SHINWAサトー建材BEAT」も同一周回でびたりと追走する。

3位は62LAPのNo.10「ぼんこつトゥデイ」が追いかける。また同一周回の4位にはNo.4「ロワードモーショントゥデイ6号」が上がって来る。優勝争いはこの上位4台に絞られた感が。

以下5位に60LAPのNo.7「あんじょうトゥデイ」、6位に59LAPのNo.77「JKパワーズトゥデイ」と続く。

#### 最終結果

激戦のKTCクラスを制したのは、予選1位からスタートのNo.48「SHINWAサトー建材BEAT」。87LAPを周回し、悲願の優勝を果たした。2位にはNo.10「ぼんこつトゥデイ」が入り、前戦に続いての表彰台となった。

一時はトップに立ったNo.36「JKレーシングトゥデイ」は惜しくも3位に終わった。

以下、4位にはNo.7「あんじょうトゥデイ」、5位にはNo.4「ロワードモーショントゥデイ6号」、6位にはNo.38「デモリッションエグゼトゥデイ」が入った。

これによってシリーズポイント争いはNo.10とNo.48が頭一つリードした感があるが、ポイント3位以下にも実力者がずらりと名を連ねているので、今後もシリーズポイント争いは混戦が続くであろう。



#### KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

前戦でもオーバーオールを獲得したこのクラス。マシンの完成度も高く玄人好みのクラスとなってきている。

今回は5台のエントリーとなったが、前戦優勝のNo.9NIWAレーシングのチームがお休みしたため、各チームとも優勝を狙う絶好のチャンスとなった。

#### 予選

予選1位はNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」で、タイムは総合ポールとなる14.708。前戦はKNCクラスで優勝を飾ったチームが、別マシンを投入してKNOクラスに参入してきた。

2位にはNo.223「ネライウチリングトゥデイ」。毎戦ユーモアあふれるエントリー名で参加のこのチーム、名前とは裏腹に実力は折り紙付き。

3位はNo.12「サイドカーショップ東海アルト」で、ホンダ車主流のNAクラスの中でアルトでの予選3位を獲得はお見事。

以下4位にはターボクラスとダブルエントリーのNo.211「白須賀トゥデイ」、5位には昨年最終戦2位の実績を持つNo.82「東海・麗神愚本田今日子トゥデイ」と続く。

#### 序盤

レース序盤は予選の順位そのままに周回を重ねる展開。30分経過時点ではNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」が22LAPを周回し、総合でもトップ争いの勢い。

2位には1LAP差でNo.223「ネライウチリングトゥデイ」がピタリと追走しトップのチャンスをうかがう。

3位はさらに1LAP差で3位はNo.12「サイドカーショップ東海アルト」が付ける。

4位、5位は同一の19周でNo.82「東海・麗神愚本田今日子トゥデイ」とNo.211「白須賀トゥデイ」が僅差の勝負を繰り広げる。



## 中盤

2 時間を経過したところでのクラストップは、No.126「アンティスネコマルトウデイ」で 68 周をラップ。この時間帯はピットイン回数がチームによって異なるため、横並びの周回数の比較はできないが、2 位に 5 週の差を付けている。2 位には No.223「ネライウチリングトウデイ」が 63 LAP で追いつける。また 3 位の No.211「白須賀トウデイ」も 2 位と同一の 63 周と追い上げを見せる。以下 4 位には 61 LAP の No.12「サイドカーショップ東海アルト」、5 位に 59 LAP で No.82「東海・麗神愚本田今日子トウデイ」と続き、優勝を狙うには厳しくなってくるが、各チームとも 2 位を狙えるポジションでの混戦模様。



## 最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、予選から終始 1 位を守り続けた No.126「アンティスネコマルトウデイ」。92 周を走りきり、総合でもトップの堂々たる結果となった。2 位は No.223「ネライウチリングトウデイ」87 LAP を周回。こちら総合で見ると 6 位という見事な結果であった。3 位には途中から激しく追い上げた No.211「白須賀トウデイ」が 82 LAP を走りきった。以下 4 位には 80 週の No.12「サイドカーショップ東海アルト」、5 位は 78 週の No.82「東海・麗神愚本田今日子トウデイ」と、均衡した結果となった。冒頭でも述べたが、今大会ではレース途中の降雨の影響で赤旗中断や、SC 導入が普段のレースより多かった。このためピットインタイミングでも周回数に差が付く難しい展開となったが、裏を返せばジャンプアップのチャンスでもあるので、今後の作戦に活かしてもらいたい。



## KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

6 台のエントリーとなったこのクラス。実力も伯仲しているだけに、安定した速さと卓越した戦術にマシンの耐久性と全てが揃わないと、簡単には表彰台には登れない。今回表彰台に上るのは果たしてどのチームか。

## 予選

予選 1 位、2 位は前戦の順位そのままに No.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」、No.14「ガレージイシヤマアルトバン」と続く。No.78 のタイムは 1 06.057 で総合でも 3 位となる堂々たるもの。3~5 位は 0.3 秒の間に 3 台が入る僅差の勝負で、No.21「ZESTポテンザLVXセルボ」、No.210「ZESTアドバンLVXワークス」、No.112「白須賀会Aアルトワークス」と続く。6 位には希少なミラターボで初参加の No.88「遠州商会&花りん号」が入るが、このチームはアメリカ人ドライバーがエントリーするなど、話題性ではトップ間違いなし。



## 序盤

序盤は予選の順位通りにレースは進む。30 分経過時点では No.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」が 22 LAP で 1 位をキープし、1 周遅れで No.14「ガレージイシヤマアルトバン」がびたりとマークする。3~6 位はさらに僅差で 4 台とも 20 LAP の同一周回。No.21「ZESTポテンザLVXセルボ」、No.210「ZESTアドバンLVXワークス」、No.112「白須賀会Aアルト



ワークス」、No.88「遠州商会&花りん号」というオーダー順でレースは進む。

### 中盤

120分を経過した時点ではNo.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」が70周をラップし、総合でもトップに躍り出る。

2位と3位はともに65LAPのNo.210「ZESTアドバンLVXワークス」、No.112「白須賀会Aアルトワークス」。この時間帯に来てもお互角の勝負を繰り広げる。

以下1周遅れでNo.14「ガレージイシヤマアルトバン」、さらに1周遅れでNo.88「遠州商会&花りん号」が続き、2位争いが熾烈になる。

その後、レースも残り30分を切ったところで赤旗中断。このタイミングでストレート上に各マシンが一斉停車したが、トップを走行していたNo.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」から白煙の報告が上がり、オレンジボール扱いでピットに戻される。これでNo.78は大きく順位を落としてしまうことに…。

### 最終結果

優勝争いは、レース中に常にデットヒート繰り広げたNo.210「ZESTアドバンLVXワークス」、No.112「白須賀会Aアルトワークス」に絞られたが、0.4秒というスプリントレース並みの僅差でNo.210「ZESTアドバンLVXワークス」が勝利をもぎ取った。

食い下がったNo.112「白須賀会Aアルトワークス」はあと一歩及ばずの2位となった。

3位はNo.14「ガレージイシヤマアルトバン」であったが、何と3位までもがトップと同一の85周。ピットタイミングの運などで、どこが勝ってもおかしくない展開であったと言える。

以下4位には途中までトップであったNo.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」、5位には初参加のNo.88「遠州商会&花りん号」と続いたが、5位でもトップから3周遅れと実力伯仲を物語る結果となった。

6位には77LAPのNo.21「ZESTポテンザLVXセルボ」が入った。

今回No.78が連覇できなかったことで、ポイント争いが非常に面白くなる結果となった。

次回はシリーズを追う上で重要な1戦。各チームとも上位ポイントを目指し、さらなる激戦となりそうである。



### KTOクラス(軽ターボのオープンクラス)

6台のエントリーとなったこのクラス。昨年からの連勝中のNo.1「DXLメビウスセルボモード」が一歩リードの感もあるが、他のチームも着々と力を付けているだけに、チェッカーが振られるまでは全くわからない。

このクラスは改造範囲が広いので、前戦終了からの得た進化をとげたチームは大化けする可能性がある。No.1の連覇なるか、それとも他のチームがストップをかけるのか。

### 予選

予選トップとなったのは、No.1「DXLメビウスセルボモード」。タイムは1'04.717と毎回ながら安定して速いタイムを刻む。

続く2~4位の3台は、7秒台で僅差の争い。2位にNo.333「チームサンコーカプチャー」、3位にNo.42「Legend of カプチャー」、4位にNo.8「チームグロー



バルカプチーノ」と、カプチーノが3台連なる。

以下、5 位に No.59「ナルミファクトリーアルト」、6 位に No.666「ヴィスコンティ[MWアルト]」と続く。

### 序盤

レース序盤は上位 5 台が僅差の争いを展開する。30 分経過時点では予選 1 位の No.1「DXLメビウスセルボモード」がトップをキープするものの、同一周回の 22LAP で No.59「ナルミファクトリーアルト」がついてくる。

1LAP遅れの 21LAPには、No.333「チームサンコーカプチーノ」、3 位に No.42「Legend of カプチーノ」、4 位に No.8「チームグローバルカプチーノ」が位置し、ハイレベルで均衡した戦いとなる。

No.666「ヴィスコンティ[MWアルト]」はレース序盤に 3 コーナーでマシンストップ。大きく出遅れることになった。

### 中盤

レース 2 時間を経過した時点でも、トップは No.1「DXLメビウスセルボモード」で 70 周をラップ。これを 2 周遅れの 68LAP で No.42「Legend of カプチーノ」と No.8「チームグローバルカプチーノ」が追う展開。

4 位の No.59「ナルミファクトリーアルト」も 66LAP とまだまだトップ射程圏内に留まる。

5 位の No.333「チームサンコーカプチーノ」は 61LAP となり、トップを狙うには厳しい状況に…。

No.666「ヴィスコンティ[MWアルト]」は、2 時間を経過しようという頃に最終コーナーでマシンストップしてしまう…。

### 最終結果

レースを終始引っ張った No.1「DXLメビウスセルボモード」であったが、終了約 40 分前にバンパーを落下するトラブルもあり終盤にアドバンテージを失ってしまう。結果、終始堅実な走りで周回数を伸ばしていった No.8「チームグローバルカプチーノ」が 90LAP を走行し、見事逆転優勝を飾った。

続く 2~4 位はなんと同一周回の 89LAP。この争いを制したのはレース終盤までトップを走っていた No.1「DXLメビウスセルボモード」。

3 位には No.59「ナルミファクトリーアルト」が入ったが、2 位から遅れることわずか 5 秒と悔しい結果。4 位には No.42「Legend of カプチーノ」が続いた。

以下 5 位には 80LAP で No.333「チームサンコーカプチーノ」が入った。

No.666「ヴィスコンティ[MWアルト]」は幾多のトラブルを乗り越え、ラストはコースに戻りチェッカーを受けたが、規定周回数に届かなかったため残念ながら完走扱いとはならなかった。

このクラスも力が非常に均衡しているので、次戦も激しい争いが繰り広げられることは間違いない。



## KWTクラス(軽ワゴン&トラックのオープンクラス)

緒戦は三菱アイが1台だけであったが、今回はさらにもう1台の三菱アイがエントリー。加えて日産クリッパートラックが1台参加し、全3台のエントリーとなった。アイ同士の対決に、クリッパーがどこまで絡めるのか!?

### 予選

予選1番時計は開幕戦から2戦連続出場のNo.2「クリエイティブ山田印ワキアイアイ」。タイムは1'15.450をマーク。

2位には初参加のNo.33「チームRSアイ」が、1'17.552となかなかのタイムで追いかける。

3位のNo.71「GTカープロデュース クリッパー」は1'23.907とやや水を開けられてのスタートとなった。



### 序盤

序盤戦、2台のアイが熱い戦いを繰り広げる。30分経過時点での1位はNo.33「チームRSアイ」で19LAPを周回。2位のNo.2「クリエイティブ山田印ワキアイアイ」は、わずか7秒差で追いかける展開。2台のアイが争う姿にはギャラリーも大注目。3位のNo.71「GTカープロデュース クリッパー」は3LAP遅れで追いかける。

### 中盤

終始つばぜり合いを繰り広げたNo.33「チームRSアイ」とNo.2「クリエイティブ山田印ワキアイアイ」。途中で順位を入れ替えながら僅差の争いを続けてきたが、120分を経過したところでNo.33「チームRSアイ」が無念の転倒…。残念ながらリタイヤとなってしまふ。

これで120分経過時点での1位は62周のNo.2「クリエイティブ山田印ワキアイアイ」、2位に56LAPのNo.71「GTカープロデュース クリッパー」というオーダーになった。

### 最終結果

1位でチェッカーを受けたのはNo.2「クリエイティブ山田印ワキアイアイ」。79周を走りきり総合でも21番手と大健闘。2位には76LAPのNo.71「GTカープロデュース クリッパー」が入った。

途中リタイヤのNo.33「チームRSアイ」であったが、規定周回数を上回ったため、記録上は3位となりポイントも獲得できる結果となった。

第3戦では昨年のクラス覇者「チーム道楽攻暴」がニューマシンの軽トラでエントリーしてくるとの噂。No.2「クリエイティブ山田印ワキアイアイ」の連勝記録に待ったをかけられるのか!?

